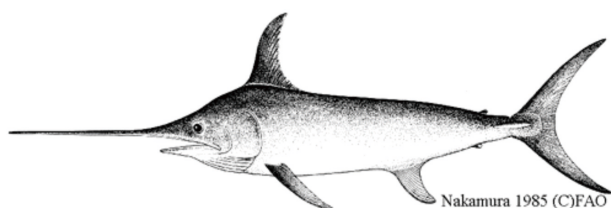


メカジキ インド洋

Swordfish, *Xiphias gladius*

管理・関係機関

インド洋まぐろ類委員会 (IOTC)

最近一年間の動き

総漁獲量は最近年急減し 2011 年には 2.0 万トンまで落ち込み、ピーク年（2004 年）のほぼ半分となった。この原因はソマリア沖海賊の活動範囲が拡大し、多くのはえ縄船が太平洋へ移動し漁獲努力量が急減したことによる。そのため、資源はかなり回復しつつある。

生物学的特性

- 寿命：調査中
- 成熟開始年齢：調査中
- 産卵場：産卵場はソマリア沖とインドネシア沖にあると考えられている
- 索餌場：マダガスカル～南アフリカ沖合域及び豪州南西部沖合
- 食性：主にいか類
- 捕食者：小型歯鯨類、さめ類

利用・用途

刺身、寿司、切り身（ステーキ）、煮付け

漁業の特徴

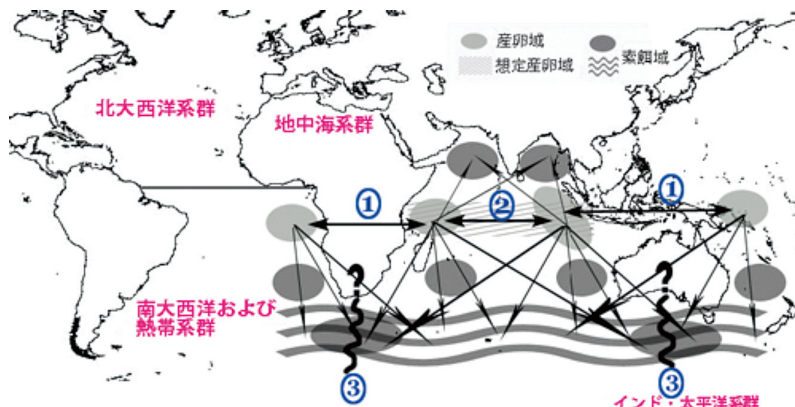
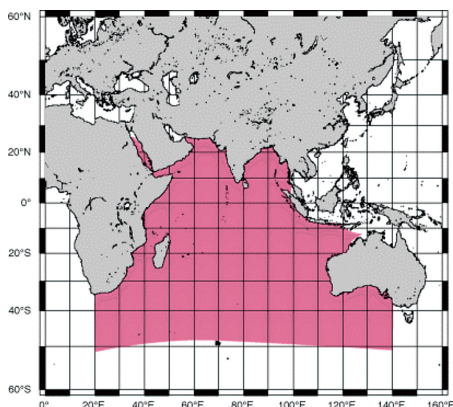
従来、台湾・日本がまぐろ類を対象としたはえ縄で混獲していたが、1990 年代から台湾・スペイン・インドネシア・オーストラリア・レ・ユニオン・スリランカ等が本資源を主対象とした操業を開始し、漁獲量が急増した。また、便宜置籍船 (NEI) による漁獲は、1990 年代は多かったが、最近では激減した。

漁業資源の動向

1950 年より総漁獲量は緩やかに増加しており、1991 年には 8,000 トンに達した。翌年 1992 年には、総漁獲量は 1.8 倍の 1.4 万トンと急増した。その後、総漁獲量は急増を続け、1998 年に 3.6 万トンに達し初期のピークを記録した。これらの急増は、主に台湾のはえ縄の漁獲量増加による。翌年 (1999 年) から総漁獲量は減少し、2001 年には 3.0 万トンとなった。2002 年より、総漁獲量は再度増加し 2004 年は 3.7 万トンと史上最高の漁獲量を記録した。その後、総漁獲量は急減し 2011 年には 2.0 万トンにまで落ち込んだ。最近年の落ち込みの原因は、ソマリア沖海賊の活動範囲が拡大しはえ縄船が太平洋へ移動し漁獲努力量が急減したことによる。我が国の漁獲はすべてまぐろ類が対象のはえ縄操業の混獲で、1982 年までの漁獲量はほとんどの場合 1,000 トン以下の低レベルであった。しかし、1980 年代から漁場が高緯度域に広がり、漁獲量は 2009 年まで 1,000 ～ 2,700 トンの高いレベルで変動した。2011 年には、漁獲量は急減し 528 トンとなり 1981 年以来 20 年間で一番低い漁獲量となった。これも海賊の影響によるものである。

資源状態

2011 年の第 9 回かじき作業部会で行った 4 種資源評価 (2009 年までのデータ使用) で、 $3.0 \leq MSY \leq 3.4$ 万トン、 $1.1 \leq B$ (MSY ratio) ≤ 1.6 、 $0.50 \leq F$ (MSYratio) ≤ 0.63 といった結果が得られた。なお、2011 年の漁獲量は 2.0 万トンで過去 5 年間の平均漁獲量は 2.4 万トンであった。以上より、本種は、漁獲圧も資源量も MSY レベルまでには至っておらず、資源状況は安全な状態にあるといえる。ただし、南西海域に限った資源評価を行った結果、乱獲傾向が見られローカルな資源量悪化が確認された。



本資源の分布 (左) と産卵・索餌域 (右) (IFREMER 2006 改変)

管理方策

第9回カジキ作業部会（2011年7月）における資源評価の結果を受け、第14、15回科学委員会（2011、2012年）は以下の資源管理方策を勧告した。インド洋全域では、今後の漁獲量は3万トン（MSYレベル）を超えるべきでない。今後現状の様な漁獲努力量が続けば特に資源管理方策は必要ないが、定期的に資源状況をモニターする必要がある。また、南西インド洋では、地域的な乱獲状況が見られなくなるまでは（BMSYが1以上になるまでは）、今後の漁獲量は6,678トン（2009年の漁獲量）を超えるべきでない。また、2008年のIOTCの年次会合ではメカジキ対象の操業船に関し、2008～2010年の3年間、加盟国及び協力的非加盟国は、毎年の実操業隻数を2007年レベルで制限する、といった決議を採択した。その他の管理方策として、まき網船・はえ縄船ログブック最低情報収集の義務、統計データ提出の強化、オブザーバープログラム（2010年7月より）、漁獲努力量（漁船数）規制、公海における大規模流し網漁業の禁止、海賊対策などがある。

資源評価まとめ

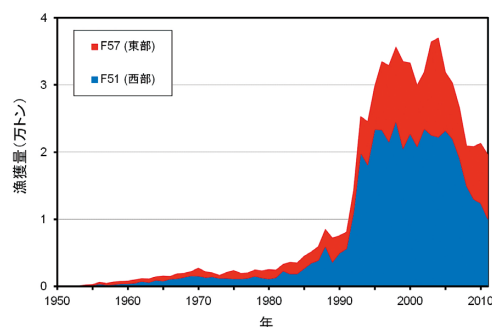
- インド洋全域では漁獲圧も資源量もMSYレベルまでには至っておらず、本種の資源状況は安全な状態にある。
- 南西海域では資源は軽度の乱獲状況となっている。

資源管理方策まとめ

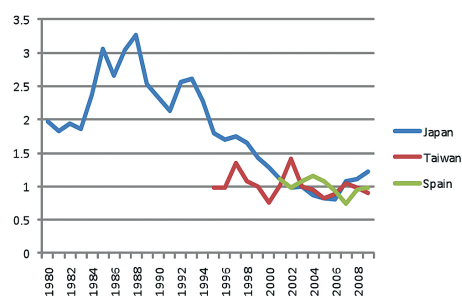
- インド洋全域で今後の漁獲量は3万トン以下。現状の漁獲努力量が継続すれば緊急の管理方策は必要ない。
- 南西インド洋では軽度の乱獲状況となっているので、今後の漁獲量は2009年の漁獲(6,678トン)以下にする。
- 漁業(漁船)管理一般に関しては、インド洋メバチを参照。

メカジキ（インド洋）の資源の現況（要約表）

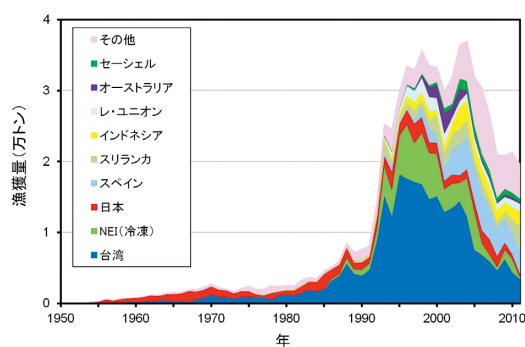
資源水準	中 位
資源動向	微 増
世 界 の 漁 獲 量 (最近5年間)	1.96～2.19万トン 平均:2.09トン(2007～2011年)
我が国の漁獲量 (最近5年間)	530～1,570トン 平均:1,190トン(2007～2011年)



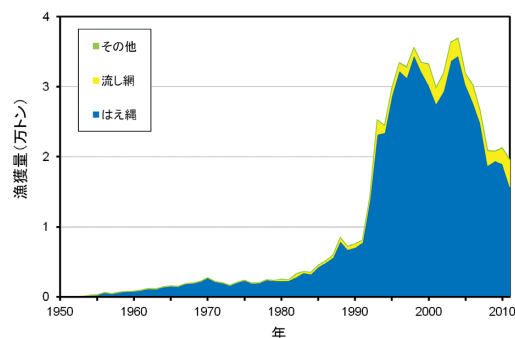
インド洋メカジキ FAO 海域別漁獲量 (1950～2011年) (IOTC データベース 2012年9月)



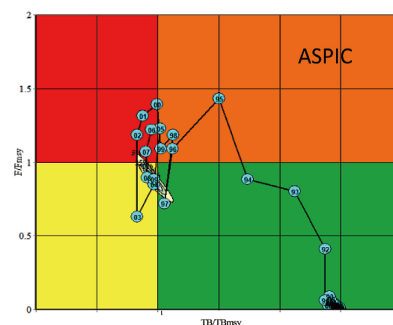
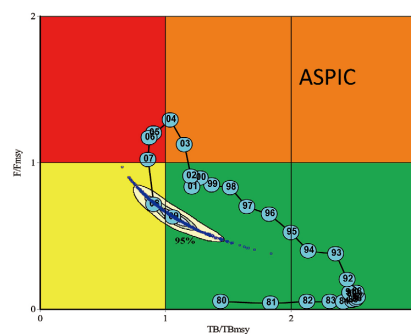
標準化されたメカジキはえ縄 CPUE (日本・台湾・スペイン)



インド洋メカジキ国別漁獲量(1950～2011年) (IOTC データベース 2012年9月)



インド洋メカジキ漁法別漁獲量(1950～2011年) (IOTC データベース 2012年9月)

ASPIC による資源評価に基づく資源状況の変遷 (南西インド洋)
(神戸プロット: Stock trajectory)ASPIC による資源評価に基づく資源状況の変遷 (インド洋全域)
(神戸プロット: Stock trajectory)